

# 令和7年度(公社)日本地すべり学会研究発表会「奈良大会」への参加報告

さ からわたる

**相楽 渉**

(一財)砂防・地すべり技術センター  
斜面保全部 次長



2025年9月16日(火)～19日(金)に奈良県奈良市で開催された「日本地すべり学会 第64回研究発表会」で、当センターの職員4名が発表を行いました(写真-1、2、3)。今回の研究発表会では、これまでの調査・解析結果や自主研究などの成果として、合計4件の発表を行いました(表-1)。

表-1 発表タイトル一覧

	タイトル	発表者	連名者	発表形式
1	令和6年能登半島地震における地すべり・斜面崩壊の特徴 ～広域的な地震応答解析を用いた再現解析事例～	宮城昭博	相楽渉、岸本海笛、田中頼博、林一成、若井明彦	口頭
2	滝坂地すべりにおけるトンネル排水の水質と地下水位低下範囲の関係	岸本海笛	相楽渉、渡邊重紀、清水一浩、丸井英明	口頭
3	月山(志津)地区における変位量と安全率の推移からみた対策工効果評価	紺野和広	網木亮介、相楽渉、宮澤駿太郎、今森直紀、高田亜美	口頭
4	水質調査結果に基づく深層地下水の把握と地すべり変動への影響 ～善徳地すべりでの検討事例～	相楽渉	澁谷歩、宮澤駿太郎、向山正純、中山一馬	口頭



写真-1 地すべり学会研究発表会 開会式



写真-2 口頭発表での地下水水質と地すべり変動との関連性に関する成果の発表

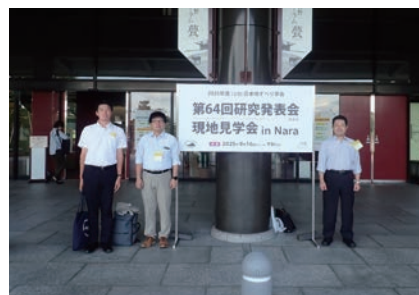


写真-3 発表会場(奈良春日野国際フォーラム)正面玄関にて

今年度の研究発表会は500名以上の参加がありました。口頭発表は4会場で行われ、その他ポスター発表や新技術紹介のコーナーも設置されていました。また口頭発表プログラムでは特別セッションとして、「令和6年能登半島地震2025」が設けられ、11件の発表がありました。各発表に対する会場からの質問や意見も多数寄せられ、その関心の高さがうかがわれました。

「令和6年能登半島地震2025」のセッションでは、宮城課長代理がFEMを用いた広域地震応答解析結果について報告しました。最大水平加速度や最大剪断力といった地震動が広域斜面

に与える影響について分析し、今次の地震で発生した地すべりや崩壊に作用した地震動の特性について考察しました。

「事例報告(1)」のセッションでは、岸本技師と筆者が発表を行いました。両者とも地下水の水質から地すべりの誘因となる地下水の起源を明らかにし、地すべり対策計画の検討や効果評価に活用する可能性を報告しました。また岸本技師は滝坂地すべり対策の効果評価の一手法として、排水トンネル工施工前後の地下水の水質変化を分析し、その結果、地すべり変動に影響を与える深層地下水が効果的に排除されている

ことを明らかにしました。

「斜面安定 (2)」のセッションでは、紺野技師が対策工の効果評価手法として、各種観測結果と安定解析結果を組み合わせた手法について発表を行いました。平成 21 年度に直轄事業化された月山地すべりでは、これまで集水井工や排水トンネルといった地下水排除工が進められています。その対策効果で地下水位が低下しており、それに伴って地すべりの変位量も減少し

ていること、併せて安全率も上昇していることを報告しました。

いずれの発表内容も、当センターが携わる受注業務・研究に活用していく上で重要な検討項目です。今後も引き続き検討した内容を積極的に発表するとともに、今回の発表や聴講で得られた知見・考え方を業務にも反映し、地すべり分野の技術の向上に貢献してまいりたいと思います。

## 「日本火山学会2025年度秋季大会」 参加報告

さとう もとひろ

佐藤 初洋

(一財)砂防・地すべり技術センター  
火山防災部 主任技師



2025年10月1日(水)～3日(金)にかけて、長野県松本市のキッセイ文化ホールを会場に「日本火山学会2025年度秋季大会」が開催された。今年度の大会では口頭発表100件(受賞記念講演6件を含む)、ポスター発表122件が行われた。STCからは4名の職員が参加し、計4件の発表を行った(表-1:写真-1、2)。また、団体展示ブースを出展し、火山砂防事業や業務内容に関する紹介、50周年記念誌『これまでの50年の火山砂防の技術』の配布を行った(写真-3)。いずれの発表でも、関連分野の研究者、技術者、学生から活発な議論がなされ、特に志水主任研究員の日本火山学会研究奨励賞受賞記念講演は、STCの先進的な取り組みとして高く評価されていると感じた。筆者のポスター発表でも、多数の研究者や学生と最新の研究動向について意見交換することができた。

表-1 発表タイトル一覧

	タイトル	発表者	連名者	発表形式
1	二層重力流モデル構築による火砕流のダイナミクスと堆積物に関する理論的研究	志水宏行		口頭
2	火山噴火と火山砂防技術の進展	藤沢康弘		口頭
3	降灰後の土石流の発生特性と火山灰の影響	池田暁彦		口頭
4	蔵王火山歴史時代活動における斜長石滞留時間の時間変化	佐藤初洋	伴雅雄	ポスター

口頭発表は「リモートセンシング」、「マグマの蓄積と移動」、「火山防災」などの大きな研究分野ごとにセッションが開催された。また本大会独自のセッションとして「2025年新燃岳噴火」が設けられ、新燃岳2025年噴火の噴火推移や噴出物の特徴に関して、噴火発生から本大会まで半年程度にも関わらず、多くの研究成果が報

告された。一方、ポスター発表はセッションを分けず、対象火山ごとに緩やかに配置され、手法横断の議論を促す配慮がなされていた。

火山砂防に関連する研究開発として、リモートセンシング技術によるより安全かつ高精度な観測手法の開発と、観測データ解析の自動化が挙げられる。降灰厚や浸透能の無人観測装置の